

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 副腎性サブクリニカルクッシング症候群・クッシング症候群の術後ステロイド離脱予測因子に関する研究

研究の目的

副腎腫瘍が原因で体内のコルチゾールというホルモンが過剰に産生されることで、「副腎性サブクリニカルクッシング症候群」や「クッシング症候群」という病気が引き起こされます。この病気は、高血圧や糖尿病、脂質異常症、骨粗しょう症など、さまざまな合併症をもたらすことが知られています。治療法として、副腎腫瘍を取り除く手術が一般的に行われます。

しかし、この病気では、手術後に体が必要とするコルチゾールを十分に作れなくなることがあります。そのため、術後には一時的にステロイド薬を補充する治療が必要になる場合があります。ステロイド補充は徐々に減量していずれ中止することが多いですが、一部の患者さんでは、ステロイド補充が長期間必要になることもあります。

本研究では、これまでの診療記録を用いて、手術前や手術後の検査結果（血液検査など）や合併症の有無を分析します。その結果をもとに、術後にステロイド補充が必要になるかどうか、また、ステロイド補充をやめられる時期を予測できる指標を明らかにすることを目指しています。

研究実施期間： 実施許可日～ 2026年 3月31日

対象となる方： 2014年4月1日～2024年9月30日までに当院で副腎性サブクリニカルクッシング症候群・クッシング症候群として手術加療を受けた方

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院の電子カルテに記録されている情報のうち、上記疾患に関して行った合併症情報、採血検査・内分泌負荷試験検査・蓄尿検査について、標記研究のため利用します。

具体的には、術前後の各種データによりステロイド補充離脱できるか予測する要因を検討するため統計学的手法を用いて比較検討します。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同

意いただけない患者さん / その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座 村澤真吾 TEL: 0172-39-5062
-------	--